

事実から作る 価値,真実,シンプルな論理学の骨子

Facts Decide Value, Truth and Outline of a Simple Logic

高原 利生

takahara-t@m.ieice.org 2020.09.03

目次

はじめに

1. 事実の歴史、存在と関係（運動）
2. 基本概念：オブジェクト、粒度、網羅
3. 真実、価値は事実から作られ変化してきた
4. 論理学の歴史と構造：論理学も変化する
5. 論理の原理

結論

はじめに 15分で分かっていたため、下記の説明を省略。

・事実 ・粒度など ・歴史と論理の一致 ・推論の変化 ・生き方

ストーリーの要約 (今までは対象化が前提)

人の事実との向き合い方：(世界観 + 論理学 = 哲学) → 生き方

1. 形式論理以外の**論理(学)**は歴史から作られ変化する
時代に合った論理学が必要なので作る
2. 時代に合った生き方を作る (省略)
3. 生き方の基本原理：対象化前提の常に全体を求める(特に論理的網羅)態度と、対象化と一体化 (自由と愛) の両立 (省略)
4. 生き方と社会を変えることも同時(本文注7) (省略)
5. **論理の原理**

3. 準備：真実、価値、論理は、事実から作られ変化 (今までは対象化が前提)

31. 真実も

32. 価値も

主体による**対象化**が前提だと、価値は主体によって異なる

33. 論理も

4. 論理学とは？

世界観 + 論理学 = 哲学 → 生き方

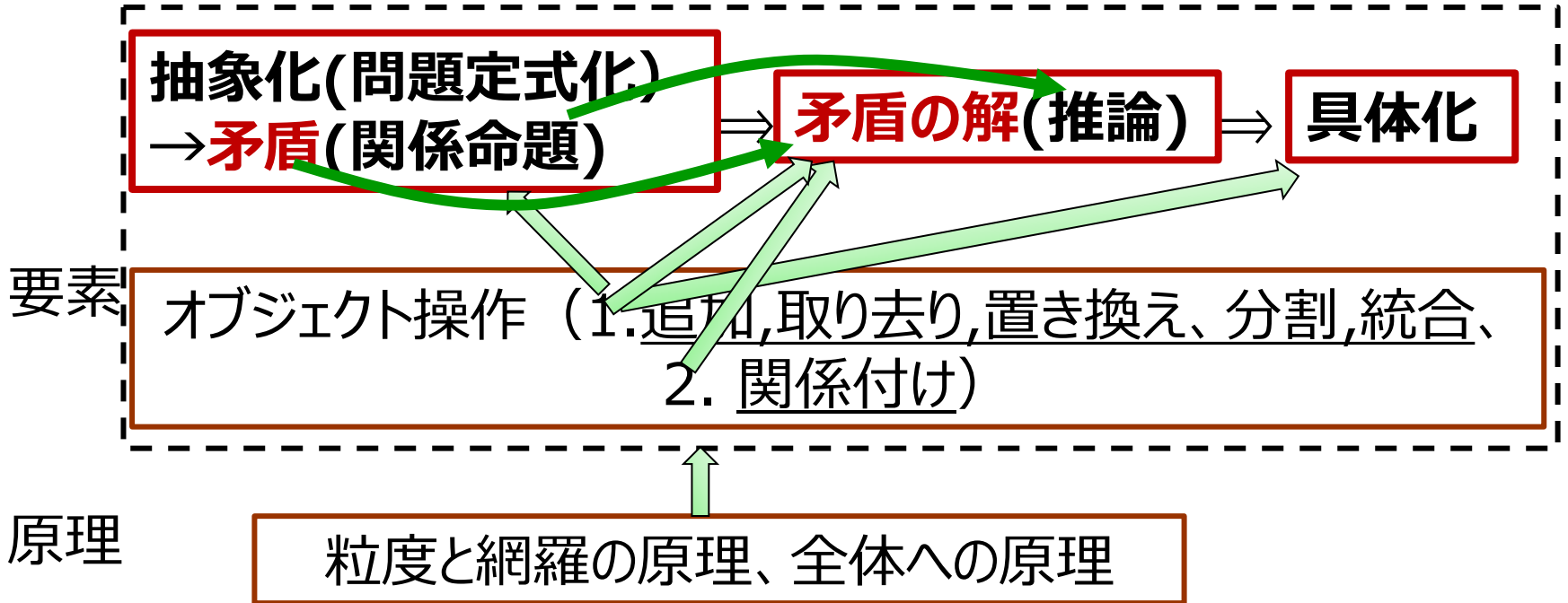
形式論理と文法の中間の弁証法論理学

ギリシャ哲学の弁証法、最近ではプラグマティズム、マルクス主義、西田哲学などの弁証法

本稿の弁証法論理学はプラグマティズムの弁証法
TRIZのアルトシュラーの弁証法がもとになっている

論理学の構造: 古い像を新しくする思考の構造

機能



「矛盾－矛盾の解」と、「関係命題－推論」は同じ

・矛盾の変化を次の次のページから数ページ

推論

事実の物理的積み重ね→ 帰納 Inductionの原型、

事実の変化の積み重ね→ 演繹 Deductionの原型、

条件実現の積み重ね→ 仮説設定 Abductionの原型

→ 普通、物理的網羅はできないので従来の帰納では正しい結果は得られない

しかし**論理的網羅**ができると

→ 正確な演繹、仮説設定のできる可能性

→ 演繹、帰納、仮説設定は、**仮説設定で統一**できる可能性

→ **矛盾の解は、仮説設定において行う**

矛盾(運動)モデル

「オブジェクト1－関係-オブジェクト2」という矛盾モデル

これが、関係し合い変化している世界の**近似**単位。矛盾モデルの合成によって、世界のあらゆる事象を表せる

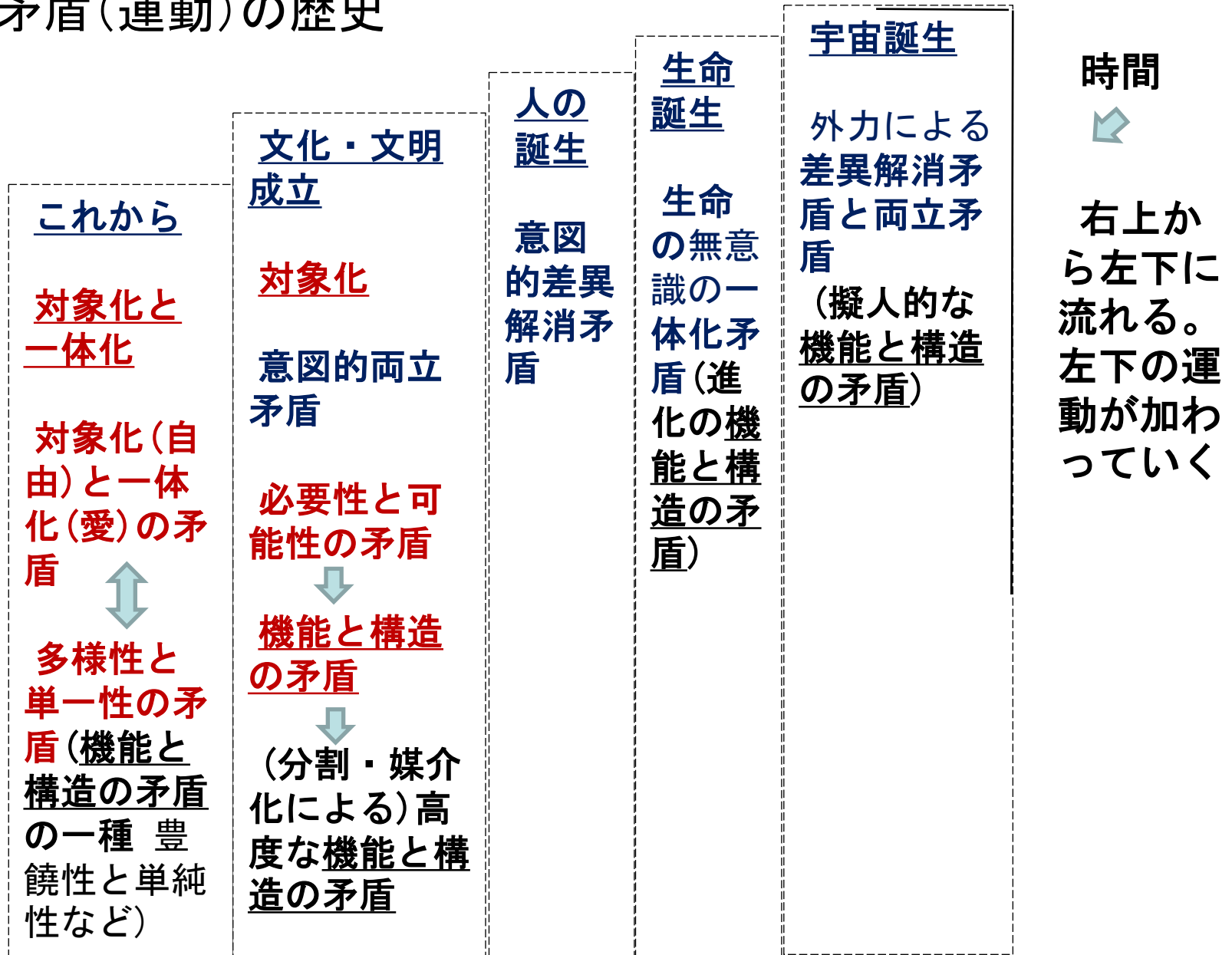
オブジェクト1と2の差異と、エネルギーが矛盾という運動を始める

矛盾	説明
1. 差異解消矛盾	通常の変化、変更.
2. 両立矛盾	通常のもう一つの矛盾。二項を(一時的に)両立 例: エンジンの大出力と軽量:機能と構造
3. (特別な) 両立矛盾: 一体型矛盾 [TS2010,11] [FIT2016,17]	二項がお互いを変更し続ける両立矛盾 例: 機能と構造, 内容と形式, 一体化と対象化, 愛と自由

矛盾(運動)の分類

矛盾	結果の型	運動の型	変化の型	説明と例
差異解消矛盾	量的変化	永続的	値	通常の変化、変更 例: マントル運動
	質的変化	一時的	値から属性	通常の変化が質的変化を起こす 例: 地震
	二項の両立	一時的	値	同時に 岡山と東京にいる
両立矛盾			属性	機能と構造(エンジンの大出力と軽量)
	質的変化	一時的		全ての製品
	変化の持続	永続的		男と女。進化の機能と構造 労働、交換と消費
一体型矛盾				対象化と一体化 批判と謙虚さ 自由と愛

矛盾(運動)の歴史



矛盾(運動)、論理の歴史 後の矛盾が追加されていく

(10万年前の知的生命誕生後) (技術開始後、**対象化**)

→意図的な差異解消矛盾、意図的両立矛盾 (**可能性と現実性の矛盾、意図的な機能と構造の矛盾**)

→ (1万年前の農業革命、6千年前の物々交換、4千年前の制度開始後、思考が開始) **無意識の(間違った)一方向一体型矛盾(所有と帰属)**

→ (今後、**一体化**) **意図的双方向一体型矛盾**

下記の社会の歴史に対応。**どの時代も論理(学), 生き方, 社会があった**

物々交換(6000年前)→

文化・文明成立から資本主義成立まで、宗教制度と独裁政治制度

(4000年前から250年前まで)→

資本主義(250年前から今まで)→

ポスト資本主義(今から数百年かけて)

5. 論理の最新の基本原理1

51. 粒度、網羅の原理

1. 何事も、全体は何か、全体の機能と構造(要素の関係)は何か、要素は何かという三つの網羅がある。要素が、新しい全体になり次に行く場合と全体が何かの要素になり次に行く場合

2. 思考の中核が**粒度決定と論理的網羅**

52. 価値と事実、それらに対する哲学と生き方の**全体原理**

521. 客観的内容

1. 条件より価値,内容が重要 大きな価値,正しい**真実**が優先

2. 過程重視：解より方法、結論より**論理**が良い。

個々の行動より**態度**が良い。

存在やその状態より、**関係（運動）**、**過程**が良い

522. 主観的態度：対象化、相対化と**一体化**

523. 方法

53. 負の原理

5. 論理の最新の基本原理2

523. 方法

1 : 事実のゼロベースと論理のゼロベース

2 : 極限を考える

- ・あるオブジェクトの粒度を1. 極限まで変えてみる.
2. その実現の手段を考える
- ・理想の答えがあるとしたらどういう形のものが

3 : 全体と部分の方法原理

- ・問題はローカルに処理しグローバル化しない。
- ・全体と部分の方法原理：全体に貢献するように部分を解く。問題を部分に分け部分を解く、行き詰ったら別の部分の問題を解く

53. 負の原理：今の論理の殆ど

531. 事実の粒度の間違い 532. 価値の粒度の間違い

533. 感情,論理,行動のすり替え

結論

1. 論理学、価値、生き方

知覚と、事実と人の関係の歴史蓄積だけに基づいて**論理学**の骨子が得られた

この論理学は、世界観、新しい**生き方**と同じようになる。

対象化と一体化(自由と愛、批判と謙虚さ、自分と他)の統一が、罪と罰、復讐を超え、新しい**価値と生き方**を作る

結論

2. 世界：「国境」と復讐のない 自由と愛の社会

生き方と社会を変えることは同時にしかできない[マルクス 本文注7]

社会の下記の優先度の高い順の実現

1. 対象化 → 災害克服
2. 対象化と一体化 → 民主主義実現、「東西対立」「国境」と戦争をなくし、お金だけが価値でない、ポスト資本主義社会
数百年に一度の変革である

謝辞: 日頃ご支援いただき中川徹 大阪学院大学名誉教授、激励いただいた高原明生 東京大学政策研究大学院 院長に感謝申し上げます

文献: [Taka-44-47] 高原利生, 「未完成の哲学ノート」 2019.3.25 初版. 2020.8.31 5版, 制作 MyISBN 発行所 デザインエッグ

メールを送っていただければ
内容のpdfをお送りします。
takahara-t@m.ieice.org

概要

AMAZONを高原利生で検索すれば
見ることができます

